

## 平成29年度情報学部情報学研究科 留学生相談室状況報告

国際教育交流センター教育交流部門

Michelle Kuhn

### 1) 留学生の指導に関して

平成29年度は、主に新設した情報学部情報学研究科（以下、本部局）における私費研究生の出願に関わった。本部局は平成29年4月から開校したため、私費留学生のウェブサイトを更新する必要があった。

日本語版：<https://www.inagoya-u.ac.jp/gs/entranceexamination/admission02/>（付録を参照）

英語版：<https://www.inagoya-u.ac.jp/en/gs/entranceexamination/admission02/>

ウェブサイトにあるように、スカイプ面談の前に審査書類がある。スカイプ面談では研究経験や研究計画などについて聞く。また、来日経験や日本語・英語の能力、経費支弁能力についても確認する。ウェブサイト開設後、指導教員と留学生とのやりとりが改善されたと言われている。

平成26年度からスカイプ面談が行われるようになり、平成27年度からスカイプ面談の前に書類審査を行っている。本年度は前年と同様に、審査書類を経たからスカイプ面談を実施している。

審査書類は：

- I. エントリーシート（所定の用紙）
- II. 事前連絡用紙（所定の用紙）
- III. 研究計画（研究したい内容の要約）
- IV. 成績証明書（最終出身大学が発行したもの）
- V. 卒業証明書・学位証明書（または卒業見込証明書）
- VI. 語学力を証明するもの（日本語または英語）

その他、平成28年10月入学の留学生を迎える準備として、7月に在留資格申請書の収集と記入のチェック、名古屋大学宿舎(寮)の申請書の管理を行った。同

様に、平成29年1月に、平成29年4月入学留学生の在留資格申請と宿舎の申請を指導した。以上の書類の収集と管理については、教務学生係と連携しながら行った。

平成29年4月・10月入学の留学生は全員が本部局の「新入留学生ガイダンス」に参加した。平成27年4月から使用してきた資料に補足を加える形でガイダンスを行った。ガイダンスでは、留学生相談室では「ようこそ」のチラシを配布する。そのチラシには、留学生相談室の部屋番号、メールアドレス、電話番号とオフィス・アワーが記載されている。また、同じ情報が情報科学研究科棟の各階段の掲示板に掲示されている。すべてのガイダンス資料は、それぞれ日本語・英語版がともに配布される。現在、日本語を読めない留学生が増えているため、英語の資料がより重要となっている。平成27年度から「情報・言語図書室のツアー」を新たに加えられ実施している。中央図書館で、日本語・中国語・英語のガイダンスが個別に開催されるが、本部局にとって最も重要な図書室、つまり情報言語図書室についてのガイダンスを受ければ、より使用しやすくなる。

また本年度は、応募者と在籍学生からの様々な問い合わせに対応した。具体的には、チューター制度や日本の生活、学費免除書類、アパート探し、進学(進路)、日本語プログラムの勉強、研究生の延長手続き、ポストク終了と帰国、修士入試と単位取得等について相談があった。

平成29年5月9日と9月29日にチューターガイダンスを行なった。この説明会では、提出する書類だけではなく、チューターの意義とチューターが可能な業務について説明した。チューター業務の例を述べながら、チューティ（留学生）とのやりとりをスムーズに進めるための方法を説明した。

平成29年10月10日に安全保障輸出管理打ち合わせに参加した。「安全保障輸出管理に関する監査」は、定期

的(年1回)に実施することとされ、外為法および関係法令に基づくものである。私は研究生の受入制度について確認をした。研究生を受け入れる際は、予定指導教員にすべての学生の出身大学を確認、必要なケースに電子申請をしてもらう。

平成29年10月31日に MARA マレーシア工業大学役人との打ち合わせがあり、私と NUPACE プログラムの担当者(楠元景子氏、特任講師)で交換留学について説明した。これから相互に交流を深めることが望ま

しい。

平成30年1月10日に SGU 枠国費留学生推薦者の選考面接に、面接担当者の一人として参加した。

## 2) 研究生の応募人数について

本年度の研究生の応募人数は表の通りである。平成28年度に比べ、4月入学希望者が増加した。しかし、残念ながら辞退となるケースもまだある。

2017.4入学	国外学部	国外大学院	国内学部	国内大学院	
応募人数	11	2	2	1	16
辞退(出願前)			1		1
内諾なし	4				4
合格	7	2	2	1	12
辞退(出願後)	3*		2*		0
入学	4	2	0	1	7
入学率	36%	100%	0%	100%	44%
*修士入試合格					
2017.10入学	国外学部	国外大学院	国内学部	国内大学院	
応募人数	22		3		25
辞退(出願前)					0
内諾なし					0
合格	22		2		24
辞退(出願後)	3		1		4
入学	19	0	2	0	21
入学率	86%	0%	67%	0%	84%

## 3) 学内留学生の活動について

4月11日に国際プログラム(グローバル30)のFDに参加した。そこで、一年生の基礎セミナーを担当する際に必要な情報を得た。本年度春季にG30(グローバル30)プログラムの一年生基礎セミナー(First Year Seminar)を担当した。テーマは“Aichi Prefecture’s Importance in Japanese History, Literature, Culture, and the Future”であった。『古事記』が編纂された時代から、愛知県と名古屋市は日本の文化や文学、歴史に重要な役割を果たしてきた。この先4年間、名古屋大学で勉強する学生に住んでいる地域を紹介しながら、大学での勉強に必要な知識を身につけさせた。例

えば、中央図書館の利用方法と電子ジャーナルの探し方などについて説明した。

4月26日に交換留学の説明会を開催した。海外部門の星野晶成氏(特任講師)とスウェーデン王立工科大学交換留学体験者の太田貴之氏に発表をしていただいた。単にプログラムの内容と条件を知るだけでなく、参加経験者である学生の話聞くことは、現役の学生たちの興味を引きつけることになった。これは来年度も開催する予定である。

6月6日に、移民のメンタルヘルスについてのFD/SDに参加した。留学生だけではなく、他の在日外国人の生活に関する問題について学んだ。そこで得た知識は学生を指導する際に役に立った。

9月7日に、国際交流会館連絡会セミナーに参加した。この連絡会では、カウンセリング部門の教員と宿舎のチューター（RA）も参加した。内容は地震と火災の際にどのように対応するか、逃げるか等について学んだ。

秋季の始めに、NUPACE Opening Ceremony と宿舎（インターナショナルレジデンス東山）のガイダンスに参加した。応募のときに指導した学生は、実際に来日し入学したので、元気な姿を見られたことが嬉しかった。

平成29年11月27日から12月3日まで、情報学研究科関係のさくらサイエンスプログラムが行われた。参加留学生は中国科学技術大学出身である。参加者は3・4年生である。また、一週間短期留学プログラムの中で本部局の研究室に訪問する他、トヨタ自動車会館を見学し、最終日に自分の研究について発表した。

12月12日に Studium Generale で「万国博覧会における日本美術から－シカゴ美術館の起源－」について発表した。参加者は、高校生から、本大学の学部生、社会人を含む幅広い層が集まった。世界に対する日本による自己紹介は、万国博覧会で行われたため、日本の美術品と米国の収集家について研究する際は、万博の存在は不可欠なものとなっている。そのため、米国にある非常に重要な和古書を所蔵するシカゴ美術館の起源とその本について述べた。

#### 4) WG 活動など

情報文化学部と情報科学研究科と新情報学部情報学研究科の教授会にオブサーバとして参加した。同様に、旧情報科学研究科教務入試委員会と新情報学研究科教務入試委員会にも参加した。国際教育交流センター全体会議と教育交流部門の会議にも定期的に参加した。

平成26年から現在まで「全学オリエンテーションWG」に参加している。毎学期、全学留学生オリエンテーションの準備に参加し、他のメンバーと協力しながら資料の改善や英訳を行っている。平成28年度からオリエンテーションのスライドを説明しながら、クリッカーを用いたクイズを導入した。クイズでは、リモコンのようなクリッカーを使用させた。スライドに

示している答えの番号を入力すると、全員の答えがスライドに表示される仕組みだ。これにより良い反応が得られたが、学生の集中力が高まって内容の理解が深まったため、オリエンテーション内容も記憶に留まりやすくなるのではないかと考える。

平成28年度から「引越しガイドブック WG」にも参加し、資料作成と英訳を担当している。同年度夏から執筆を開始し、平成29年8月に出版された。下記のリンクからダウンロードできる。引越しオリエンテーションは12月5日と12月7日に行なった。私は12月7日に英語版を担当した。

<http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/info/life/GuideBookforMoving2017.pdf>

#### 5) その他の業務

本年度も、「名大授業」のウェブサイトの運営委員会に参加し、英語班を担当した。

平成27年10月から平成29年3月まで「科学研究費助成事業若手研究（スタートアップ）」に採用された。調査と撮影は平成28年度に終了したが、学術論文の執筆と投稿は本年度も続いた。以上の調査は学術論文で紹介され、学会雑誌に掲載された。

9月15日に科研費の説明会に参加した。平成27年から28年の間に「科学研究費助成事業若手研究（スタートアップ）」に採用されたが、今後「若手研究」に応募するときのために、この説明会に参加することにした。科研費の応募制度は平成29年に改変があったが、この説明会で学んだ知識は役に立っている。また、説明会終了後に、マンツーマンでの相談をしてもらえたので、自分の応募書類の弱点について訊くことができた。

#### 6) 今後の課題

本研究科の留学生相談室では、平成29年度に様々な点で改善を行った結果、留学生の生活に良い影響を与えたとみている。来年度も同様に、受け入れ制度や留学生の支援等、様々な面で活躍したいと考える。